

入学式式辞

校庭の桜も満開となり、木々の若葉が芽吹き始めた、今日の良き日に、兵庫県立明石南高等学校 第79回入学式を挙げることは、私ども教職員一同にとってこの上ない喜びであります。また、PTA会長 辻本 達也 様、暁美会会長 金澤 福男 様をはじめご来賓各位、多くの保護者の皆様にご臨席を賜り、厚くお礼を申し上げます。

ただいま、入学を許可しました281名の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員・在校生一同、皆さんの入学を心から歓迎いたします。今日から皆さんは、県立明石南高等学校の生徒として高校生活を送ることになります。

本校を選び、これからの高校生活を期待に胸膨らませている皆さんを頼もしく、そして心強く思います。この喜びは、皆さんの努力の結果であることに違いありませんが、家族をはじめ、今まで支え導いていただいた多くの方々への感謝の気持ちを決して忘れないで、今日の決意を継続してください。

さて、本校は今年で創立103年を迎え、卒業生は令和6年3月末で約3万5百人を数える歴史と伝統のある学校です。1921(大正10)年4月に明石市立明石高等女学校として開校し、1948(昭和23)年に男女共学の明石市立明南高等学校となりました。その後、1965(昭和40)年に市から県へと移管され、県立明石南高等学校と改称されました。2007(平成19)年には普通科から単位制総合学科へと改編し、地域に根ざし、そして地域に愛される学校として発展してきました。

本校は『夢実現』みんなの幸せを担う人になる。明石南高校」をスローガンに、創立以来、脈々と受け継がれてきた校訓である「自主」「協同」「善意」のもと、夢実現にむけた意欲、確かな学力と行動力を備え、心豊かで広い視野に立ち、他者と協働して積極的に社会に貢献できる人材を育成すべく、日々の教育活動に全力で取り組んでいます。

皆さんには、校訓の精神を継承しつつ、将来にむけて自立することは勿論のこと、「豊かな発想」と「たくましい行動力」で他者と協働しながら、世界や日本中で活躍し、ふるさとである兵庫県や明石市を支え、牽引する人に成長してくれることを大いに期待しています。

そのために実践してほしいことを三つ述べます。

一つ目は、「向上心」を持ち続けることです。皆さん、卒業式で歌い継がれる森山直太郎さんのシングル曲「さくら」はご存じでしょう。今年3月、アメリカ・ワシントン州での伝統行事「全米桜祭り」の開会式に出演された際、森山さんは「一番歌ってきたゆえに、一番緊張する曲でもある。ライブをやる以上、聞き手の想像を超えなくてはいけない。」と、一流歌手であっても常に自分磨きを意識して、観客は勿論、自分に満足できる生き方を目指されています。新入生の皆さんは、「伸びしろ」しかないと思っています。決して自分で限界をつくらないように、「今日よりも明日の」「今よりも将来の」自分が過去の自分を超えていくようにしましょう。そのためには、サポーターとなる多くの仲間や保護者・教員などの協力者を増やせるよう、皆さんの立ち振る舞いもきちんとすることが大切です。言い換えれば、人を大切にすることです。

二つ目は、「当たり前前の方が当たり前」できる、そして認め合うことです。朝起きたら「おはよう」、お世話になったら「ありがとう」など挨拶をする。汚れた洗濯物や脱いだ服を洗濯機に入れる。食後の食器を洗い場まで運ぶ。困っている人がいたら声をかける。相手に嫌な思いをさせることよりも、相手の立場に立って相手に喜ばれる行動はとても気持ちのいいことです。「人のふりみて、我がふり直せ」という言葉がありますが、人にされたら嫌なことを自分の行動に置き換えて、そうならないように自分の行動を正すという意味です。これらの行動や立ち振る舞いを習慣化するために、最初は常日頃、意識することが必要ですが、卒業時には自然に行動できるようになってほしいと思います。

三つ目は、「判断力」を磨いていくことです。今月3日に発生した台湾地震の新聞記事において、「沖縄県与那国島のダイビング中に地震が発生し、海中からお客様を船に収容した船長が津波の影響を受けやすい陸に向かえば危険と判断し、より沖合で待機するという行動をとった。」という記事が掲載されていました。また、その船長は「海に囲まれた離島で津波のことは常に想定している。迅速に行動できた。」と振り返り、事なきを得ました。この記事は決して遠い国の話でも、海上だけで起こりうる話でもありません。私たちの日常生活でも起こりうることで、普段の備えや環境が整っていたことで、命に関わるような事態に至らなかったというよい事例です。皆さんも普段から自分の身を守るために、他人ごとで終わらせないで、いろいろな状況に対応できるよう備えておく。そして、災害だけでなく、社会の変化に対応できるよう、日常生活を意識して行動してください。

最後になりましたが、保護者の皆様、改めましてお子様のご入学おめでとうございます。本日より大切なお子様をお預かりいたします。高校時代は心身ともに大きな成長を遂げる一方、心が大きく揺れ動く時期です。失敗をする時も、気持ちが萎える時もあるでしょう。そのような時、どうかお子様を見守り支えてあげてください。教育は家庭と学校が連携してこそ実を結ぶものです。三年後の卒業式には、「明南に入学させてよかった」と喜んでいただけるよう、職員一同、全力でお子様の教育に取り組んでまいります。どうか本校の教育に温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに 79 回生の皆さんに、現パナソニックグループ創業者である松下幸之助氏のエッセイを紹介して式辞の結びとします。

「自分には自分に与えられた道がある。広い時もある。狭い時もある。のぼりもあれば、下りもある。思案にあまる時もある。しかし、心を定め、希望をもって歩むならば、必ず道はひらけてくる。深い喜びもそこから生まれてくる。」

79 回生の皆さん、いよいよ高校生活が始まります。これからの三年間が、ともに輝かしい未来につながることを心から祈念して、式辞といたします。

令和6年4月8日

兵庫県立明石南高等学校長
織 邊 剛